

hand in hand

<令和5年度 ^{きょじゅうちこうこうりゅう} 居住地校交流について>

今年度は、小学校15校(昨年度より3校増)、中学校6校(昨年度より2校増)において居住地校交流を実施しました。当日は、言葉や笑顔を交わしながら地域の友達と共に学ぶ姿がたくさん見られました。

交流の人数や回数、学習の形態は以下の通りです。

○小学部→31名(児童数38名/81.5%) 35回実施

理科、音楽、体育、図画工作、家庭、外国語活動、特別活動(全校集会)

○中学部→7名(生徒数26名/26.9%) 7回実施

音楽、美術、体育、総合的な学習の時間



N小学校では、事前に児童が「Aくんとなかよく、たのしく学習するためにはどうしたらいいか」を考え、当日は「安全に」「あったかハートで」交流することをめあてに取り入れて、体育の学習を行いました。優しくボールを渡したり、Aくんと同じペースで走ったりする児童の姿が見られました。

本校の児童生徒にとって貴重な学びの場であるとともに、相手校の児童生徒にとっても、心に残る時間になることを願っています。

今年度は初めての交流時は事前に、小3(以前に交流を実施済の場合)と小6は事後に障害理解授業を実施しました。

居住地校交流の実施を伴わない障害理解授業も行っておりますので、ぜひ、お声掛けください!

居住地校交流 ありがとうございました

今年度も温かい雰囲気の中で、積極的に関わる姿やお互いに相手の様子を見て考える姿、言葉を選んで働き掛ける姿がたくさん見られました。交流相手校の先生方には、打合せや交流の事前事後授業への御理解と御協力、当日の授業での配慮や事後指導など、たくさんのお力添えをいただきました。本当にありがとうございました。

今後のよりよい交流に向け、居住地校交流を実施した担任の先生方にアンケートをお願いします。



← 回答はこちらからお願いします☆
(2月末頃までご回答願います)

大曲支援学校
地域支援部主任 丹波 舞子



「日々の授業改善協議」の実践から

今回は、先日行われた小学部1・2年生(6名)の国語科の授業実践について紹介します。

教材名 『さんびきのこぶた』

本時の目標：木の家を作ることが分かり、「軽い」「堅い」などの言葉を使ったり、感想を擬音語にしたりして木の特徴を表す。

物語の内容は、児童にとって分かりやすく、これまでに何度か見聞きしたことがあるため、児童は主体的に学習に取り組んでいました。「軽い」「堅い」の単語カードを提示するとき、反意語である「重い」や「やわらかい」の単語カードも提示して、更にカードに重さを付けたり、素材を変えて違う堅さにしたりして比較できるように教材を工夫していました。

ICT機器だけでなく、実物の藁と檜の木材、レンガを提示し、見る(視覚)だけでなく、触れる(触覚)など体験的な場面を設定することで、「木はつつつで、レンガはカチカチ」。「レンガは重い、木は重くない」などの発言が聞かれました。また、嗅ぐ(嗅覚)ことで、「藁はくさいけど、木はくさくない」など様々な感覚を使って気付いたことを自分の言葉で表現していました。



児童から出された「重くない」は「軽い」、「カチカチ」は「堅い」という言葉でも表現できることをその場で一緒に考えたり、振り返りの場面で再確認したりして、児童の言語活動を充実させるための工夫が見られた授業でした。

相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立大曲支援学校

教 頭：浅沼 和子(あさぬま かずこ) 北島 英樹(きたじま ひでき)

教育専門監：大川 康博(おおかわ やすひろ)

地域支援部主任：丹波 舞子(たんば まいこ)

特別支援教育コーディネーター：佐々木貴子(ささき たかこ) 森 愛子(もり あいこ)

特別支援教育アドバイザー：大沢 貴子(おおさわ たかこ) (大仙市立花館小学校内)

〒014-0072 秋田県大仙市大曲西根字下成沢 122

電話：0187-68-4123 FAX：0187-68-4122

部報「hand in hand」や依頼状の様式等は、大曲支援学校HPからダウンロードできます。